私の名は「野原ひろし」

クマトキ

焼け野原ひろしが好きだけども
森川智之さんがひろしをやっていて
サラリーマン繋がりの吉良吉影がいたから
描きたくなった自己満足小説です！
処女作なため誤字・脱字があったり
言葉の回しや言い方が間違っていたり
クレヨンしんちゃん自体30分アニメ方を全然見てないので日常の描写が自分で考えたりしたりしてます
メインとしては映画の内容を考えてます
原作崩壊やキャラ崩壊があると思うので
苦手な方や嫌いな方がいると思います。
気おつけて読んでください

目次

設定 7
プロローグ 1

設定

過去話を作るのが大変そうなので
今現状の設定を入れていきたいと思います

少しずつ増えていくかも

今作のメインキャラ

名前 野原ひろし
年齢 35歳
スタンド名 キラークィーン

経歴

第４部終わり仗助たちに負け【振り向いてはいけない小道】で呑まれたあと何故か５歳の時の野原ひろしに憑依していた

野原ひろしに憑依し

自分の運命であった『人を殺さずにはいられない』性は消えた、そしてスタンドであるキラークィーンは残っていた。だが、第３の爆弾『負けて死ね（バイツァ・ダスト）』も性のように消えていた。使ったわけではないが消えたと感覚的にわかった。

そのまま野原ひろしとして人生を過ごし

みさえに会い結婚し、しんのすけが生まれひまわりが生まれシロが拾われ心の底から大切だと思える家族を手に入れた

今現在は一般的な父親のように過ごしている

休みの日や祝日は家族とすごしたり家事を代わりにやったり日曜日大工やがガーデニングなどをしている

口調は野原ひろしだが、考えてる時の内容などは吉良吉影に近い

原作との変更点

1・スタンドが使える。
2・家族を第一に考え危害を加えるものに容赦はしない。
3・酒はたしなむ程度。
4・より家庭的になり家事などもやるようになる。
5・会社内ではあまり人間関係が良くない。
6・ひろしの趣味であったゴルフは無くなりガーデニングが趣味になっている。理由は吉良吉影の趣味が爪の長さを測るたま保管するだったが、「性」が無くなり爪が伸びなくなったため、習慣的にやっていた爪を切ることや図ることがやれず落ち着かなかったため代わりになるものを探していたらガーデニングに落ち着いた。
7・みさえ一筋のため女性にはなびかない。たまに「あの人の手綺麗だな」とは思う

名前 野原みさえ
年齢 29歳
経歴

基本的に原作と変わりなし
原作との変更点
1・おばはん感が無くなり少女感が増した
2・ひろしの性癖が「綺麗な手」なためかなり気を使った手の手入れをしている
3・髪型が常に原作アニメ『ムリして若返っちゃうゾ』の時の状態のである

名前 野原しんのすけ
年齢 5歳
スタンド ?
経歴
基本的に原作と変わりなし
原作との変更点
1・原作のしんのすけよりもスケベさやお下品さは少なくなっている。
2・身体能力や五感がギャグ漫画補正ではなく普通に高い

名前 野原ひまわり
年齢 0歳
スタンド ？
経歴
基本的に原作と変わりなし
原作との変更点
1・身体能力や知性がギャグ漫画補正ではなく普通に高い

名前 シロ
年齢 ？
スタンド ？
経歴
基本的に原作と変わりなし
原作との変更点
1・身体能力や知性がギャグ漫画補正ではなく普通に高い

プロローグ

誤字脱字があった場合もあります
ありましたら
教えてください
暖かい目でお願いします

「野原くん、今から一緒に飲みに行かないか？今日はたいへんそうだったそうじゃないか。」
会社を出てすぐの入口で
少し疲れた顔で痩せ気味のサラリーマンが話しかけてきた
野原ひろしの同僚の大野木だ
彼は、今日のひろしの仕事の多さに気づき

食事の誘いをしたのである。
「すみません。大野木さん
家内が料理を作って待っていますので
今日はこれで失礼します。」
「そっか…じゃあしょうがないなまた今度な！」
「はい、それでは」
そのまま野原ひろしは真っ直ぐ駅へと向かっていった
すると大野木の後ろから声が聞こえた
「やめとけ、やめとけ。
あいつは付き合いが悪いんだ、どこかに行こうぜって誘っても『必ず家族』を優先するだ
野原ひろし35歳既婚、仕事は真面目にそつなくこなすがいまいち情熱のない男だ家族思いなのは分かるがこれと言って特徴のない影の薄い男さ」

いつもの様に同じ駅に行き
いつもの様に同じ車両に乗り
いつもと同じ駅で降りる
そして20分ほど歩いて見えてくる
赤い屋根のある2階建ての家
これが私の家野原家だ
インターホンを押しピンポンと鳴る
「はーい」と女性の声が聞こえ「私だ」と短く返事をし玄関に向かうすると玄関の明かりがつき鍵をあける音するドアが開き家内である『みさえ』が出迎えてくれた
これは夫婦としての約束ごとだ。
私が帰るてきた時はインターホンを鳴らし
みさえに出迎えてもらうという約束だ

そして一番最初に言ってもらうのだ
「あなた、おかえりなさい」
「ああ、ただいま」
玄関に入ったら上着を脱ぎみさえに渡した
これも約束ごとだ
私は野原ひろしになって
みさえと結婚してから約束ごとが増えた少しは面倒だと思う約束ごとなんて自分のことを縛ってるような感じがするからだ
だがそれ以上に
私は『幸せ』だと感じている
靴を脱ぎみさえが上着を持ち奥に向かうと入れ替わりのように
子供たちが来た
「おかえり〜、とうちゃん」
「たぁー」
「ただいま、しんのすけ、ひまわり」

『しんのすけ』と『ひまわり』だ
2人は私の方に向かってきて
そして通りすぎ「私の靴」へと向かった
何故か今の私の足は物凄く『臭い』
昔はそうではなかったはずなのに…
必然的に靴下も臭い
近くに寄せなければ害は少ないのだが、何度も消臭剤、洗濯、買い替えはしたものののこの『臭い』だけは消すことが出来なかった。
たまに、しんのすけとひまわりは
好き好んでこの『臭い』を嗅ぎに来る
物凄く臭いはずなのだが
二人とも顔をしかめて臭そうにしてる
私は少し悪戯心で私の靴下も近ずけてやった。
二人とも倍になった臭いを嗅ぎ笑い転げた。
私もつられ一緒に笑ってしまった

「ははは、何をやっているんだ
しんのすけ、ひまわり
とうちゃんが鞄とか置いたら一緒に風呂はいるぞ」
「ほほ〜い」
「たぁーい」
キッチンを跨ぎ奥の寝室に向う
キッチンではみさえが料理の支度をしてる
料理は風呂が終わった後辺りに食べれそうだな
「あなたー、今日はあなたの好きな肉じゃがよ」
「おーそうかそうか、ありがとな
今日は仕事が多くて疲れていたんだ」
「えっへん、夫のことならなんでも分かる
できる妻ですから」
みさえはこちらに体を向けて可愛らしくおたまを持った手を腰に当て胸を張っていた

とても、美しく感じた
昔の私は美しい手にしか興奮し愛せなかったのに
今の俺はみさえという女性を愛している
今でも手は好きだ、その事を知っているみさえは手の手入れは1番気合を入れている
みさえだけではない
しんのすけもひまわりも愛している
「明日は、俺は休みだ
せっかくだから明日の料理は俺がやろう」
「ほんと！
あなたの料理美味しいから私好きなのよね～
でも、私の料理も負けてないから！」
笑顔で頬を赤くしながら言って
直ぐに自分の料理に戻って行った
私はそのまま寝室に進んだ

いつもの様に家に帰り
いつもの様に家族と戯れる
いつもと同じ
『平穏で幸福』な日々
昔の私 吉良吉影の『性』は存在しない！
今！この俺 野原ひろし には！
存在しない!!
この植物のように平穏な日々を
この幸せな日をおくる為に
『家族』を守るために！
これを壊すものには容赦はしない…

『キラークィーン』

もし良ければ
感想お願いします！
もし可能ならそうなら続けます
私のイメージ的にみさえの髪型は
アニメ「ムリして若返っちゃうゾ」での髪型でイメージしてます。そちらの方が
可愛いですし

私の名は「野原ひろし」

著者　クマトキ

発行日　2019 年 12 月 28 日

ハーメルン -SS・小説投稿サイト-
https://syosetu.org/novel/180244/

本書の内容を無許可で転載・複写・複製することは、禁じられております。